

令和6年度 田原市議会広報広聴委員会 行政視察報告書

日 程 令和6年7月18日（木）～7月19日（金）

視察先 1 「議会活動の情報発信について」（神奈川県相模原市）

2 「議会の広報広聴活動について」（静岡県菊川市）

参加者	委員長	内藤 喜久枝	副委員長	古川 幸宏
	委員	小川 貴夫	委員	村上 誠
	〃	岡本 重明	〃	小川 金一
	〃	真野 尚功	〃	柳元 浩幸
	事務局	小久保 乃衣美		

1 「議会活動の情報発信について」（神奈川県相模原市）

令和6年7月18日（木） 14:00 ～ 16:00

対応者	相模原市議会局長	増田 美樹夫 氏
	相模原市議会局政策調査課総括副主幹	内山 智弘 氏
	相模原市議会局政策調査課主査	村山 祥子 氏

（1）概 要

相模原市は首都圏南西部、神奈川県北部に位置する政令指定都市である。市の真ん中には相模川が横断し、東側には相模原台地、西側には丹沢山地、秩父山地が広がっている。昭和29年に人口8万人で市制を施行しており、平成18年から19年にかけて津久井郡の4町と合併し、現在に至る。行政面積は328.9k㎡、人口は約74万3千人（R6.7.1時点）である。

令和6年6月時点で市議会議員は45人。常任委員会は、総務（9人）、民生（9人）、市民環境経済（9人）、建設（9人）、子ども文教（9人）の5委員会。他に議会運営委員会（11人）などがある。

相模原市議会では平成26年1月に市議会ホームページをリニューアルし、市のホームページから独立をした。また、市議会フェイスブックの運用も開始した。同年6月には相模原市議会基本条例が制定され、それと同時期に「Action7」として議会局の3課の職員（計7名）からなる検討組織を設置した。平成27年度の「Action7」で「広報の推進」について提案がされ、大学連携による議会紹介漫画やポスターの作成、市議会ホームページのスマートフォン対応、キッズページの作成、SNSの投稿の充実などが行われた。近年の取組としては、市議会インスタグラムの開設や議場の傍聴席への字幕表示モニターの設置、議場コンサートの実施などがある。

ホームページについては、現在リニューアルから10年経過しているが、情報の更新を行うことだけに意識が向き、システムを管理する意識が希薄になっているという課題がある。また、外国語への対応やAIの活用などができておらず、現在のトレンドから取り残されているが、次のリニューアルの検討を進められていない現状がある。

議会紹介漫画については議会・大学・学生いずれにとっても負担が軽いいため、平成 28 年度からは定例会議を紹介するポスターの作成に変更されている。作成されたポスターはホームページで公開したり、公共施設、デジタルサイネージへの掲示を行ったりしている。

市議会だよりについては、平成 30 年に全面リニューアルが行われた。リニューアル後の主な変更点は、愛称を「WITH YOU」にしたことや縦書きから横書きへの変更、文字数を約 50%削減したことやフォトギャラリーコーナーを設置したことなどである。

(2) 参考になった点

- 20 代向けに議会ホームページのスマートフォン対応、小学生以下向けにキッズページの作成、30 代から 40 代向けに SNS での広報活動、高齢の方向けに議会だよりなど、ターゲットごとに効果的な手法を取り入れており、情報発信について様々な工夫を行っている。
- 相模原市内の女子美術大学と連携して作成した議会紹介漫画は、「目立つ」、「わかりやすい」などといった特性を持ち、若年層が議会に興味を持つきっかけとなる一方、議会、大学、学生のいずれにとっても負担が軽い。
- 議会だよりはよくまとまっており、代表質問の取り上げ方などへの工夫が見られたが、その作成は議会局が主体となって行っており、本市と大きく異なっていた。レイアウト等は専門の業者に任せることで、調整が取れている。
- 議会だよりの配布方法について、本市は冊子形式であるが、相模原市は新聞紙面形式であり、新聞折り込みで各家庭に配布している。
- SNS を使った議会の情報発信は、議会局の職員が主として担当しており、発信する情報は正副議長の公務や会議の予定などに限定されている。情報を発信するにあたっては、利用者に誤解や混乱を生じさせないように運用方針を定めている。
- SNS での情報発信については、どれくらいの人が閲覧しているのか等、効果測定が今後の課題になっているところ。
- 「分かりやすく、開かれた議会」を目指すことを目的に、聴覚障がい者のための字幕モニターを設置している。
- 議場コンサートを実施したり、相模原青年会議所主催の「中学生議会」に協力している。

(3) 所 感

- SNS での投稿をかなり積極的に行っており、議会活動を市民へ周知していくという姿勢については見習うべきだと思った。
- SNS での情報発信は若い世代へのアピールになるのではないかと感じた。情報発信にあたっては事務局が主体となり、行事やトピックなど、客観的な事実のみを発信していくのが良いと思った。

- 議会だよりや議会ホームページなど、現在の広報活動の効果測定を行い、現状を把握する必要があると感じた。それによって、次に取り入れる事柄の検討が必要だと考える。
- 本市議会も、市民にとってより身近で透明性の高い議会活動を実現できるように、議会だよりの配布場所や配布方法についてさらに研究する必要がある。
- 若い世代や女性にも手に取ってもらえるよう、広報誌の作成を考えていきたい。
- 議会の情報発信について様々な取組を行っており、その中には発信を小休止しているものもあるようだが、常に前向きに取り組む姿勢と、取り組んだ結果効果が得られなかった場合でも、次へのステップとしてとらえている姿勢は必要なことだと思った。



2 「議会の広報広聴活動について」(静岡県菊川市)

令和6年7月19日(金) 13:15 ~ 14:50

対応者 菊川市議会議長	山下 修 氏
議会報告企画委員会委員長	渥美 嘉樹 氏
菊川市議会事務局主幹兼総務係長	松下 伸彦 氏
菊川市議会事務局総務係	瀬々 椋太郎 氏

(1) 概 要

菊川市は、静岡県の西部に位置し、一級河川「菊川」の中流域に広がっている。昭和29年に堀之内町、六郷村、横地村、加茂村、内田村が合併し、菊川町が誕生した。昭和30年に河城村、昭和32年棚草原地区が菊川町へ編入された。その後、平成17年に小笠町と菊川町が合併して菊川市になり、現在に至る。行政面積は94.19k㎡、人口は約4万7千人(R6.3.31時点)である。

令和6年4月時点で市議会議員は17人。常任委員会は、総務建設(9人)、教育福祉(8人)、一般会計予算決算(17人)の3委員会。他に議会運営委員会(7人)、議会報告企画委員会(7人)や議会だより編集委員会(6人)がある。

議会報告会では、付箋を活用した市民意見の聴取や全体会の開催、参加者への記念品の進呈を行っている。全体会は、平日の夜に行っている報告会に参加できない市民のために、週休日に開催しているものである。この全体会では託児環境の整備や手話通訳を取り入れ、子育て中の方や障がいを持つ方が気軽に参加できる体制づくりをしている。また、令和5年度からの取組として、議会報告会の開催案内については、市議会フェイスブックや市公式ラインでの案内、市内の園長会でも案内を行っている。その他、ユーチューブで議会報告会の映像を配信している。

平成28年から、菊川市の未来を担う子供たち(小学5年生から中学3年生)を対象に、模擬議会の体験を通じて、議会や市政に関心を持ってもらい、将来の市議会議員及び有権者の教育を図ることを目的に、こども議会を実施している。実施時期は夏休み期間中の全5日間で、こども議員は提言書の発表に向けて、テーマ決めから調査・研究、提言書の作成まで、市議会議員のサポートを受けながら活動する。こども議会で出た意見は、今後のまちづくりの参考としている。

広報誌については「より手に取ってもらい、読んでもらえる議会だより、誰にでも分かりやすい広報」を目指し、平成28年にリニューアルを行った。リニューアルにあたっては、他市の先進事例の視察や、他市の議会だよりと比較するアンケート調査を実施している。

「市民に分かりやすく開かれた議会運営」、「議会機能の強化」、「身近で信頼される議会」を目指し、菊川市議会の活動に関するアンケート調査を実施している。アンケートの調査結果は菊川市議会基本条例の見直し手続きの基礎資料として活用したり、議会活動や議員活動の見直しにもつなげている。

令和3年8月に、市民の議会及び市政に対する関心を高めることを目的に、市議会公式フェイスブックを開設した。ここでは、議会の取組や活動のお知らせについて情報を発信している。

(2) 参考になった点

- フェイスブックは情報鮮度の高さ、情報拡散力の強さ、投稿実績を確認できるなどメリットが多く、説明者からも活用を重要視していることが伺えた。
- 議員自らが SNS 等の発信方法を検討し、駆使している。
- 週休日に行われる全体会では、託児環境や手話通訳を導入しており、工夫が感じられた。
- ユーチューブで議会報告会の映像を配信しているが、編集は議員が行っている。
- 市議会が主体となって「こども議会」を開催しており、子どもたちの意見を提言書として作成し、発表まで行っている。教育の一環として、幼いころから議会に対する理解ができるようにしており、若者の政治・行政への関心を育てることに寄与している。
- 議会活動に対するアンケートを実施することで、基本条例の見直しを行っている。

(3) 所 感

- 若い世代への政治関心を高めるため、田原市版の「こども議会」の設置運用の検討を行い、幅広い層から政策提案が可能となるような仕組みの構築を図ると良いのではないかと思った。
- 本市において、フェイスブックやインスタグラム等のプッシュ型の広報活動が求められていると思った。
- 広報誌をリニューアルするにあたり、他市の広報誌と比較するアンケートは一考の価値があると感じた。
- 議会報告会について、チラシだけではなく、SNS を利用した開催案内の展開も有効ではないかと思った。
- 田原市議会の活動に対するアンケート調査を実施し、現在の市民からの客観的な意見を参考にすることが必要だと感じた。

